

## 海洋安全保障シンポジウムに参加して

平和・安全保障研究所  
西原 正

第2回海洋安全保障シンポジウムの第一部に参加して、大変有意義なプログラムであったと思った。山下海上自衛隊防衛部長による基調講演で海洋国際秩序の利害を共有する海上自衛隊、海上保安庁、および商船界の間の協調の重要性を強調され、それを受けて海上保安庁出身の向田様、日本船主協会の保坂様、海上自衛隊OBの古庄様の適切な発題があった。

参加者は、1億2千万人の日本人の生活を支えるために必要な年間9億トンに上る貿易量のほとんど100パーセントが海上貿易によっていること、それらの輸送を行っている商船活動の重要性、また日本周辺海域の警備に当たる海上保安庁および海上自衛隊の重要性の認識を深めたことと思う。しかしこの点で世界に広がる日本の商船活動の安全を確保するうえでは、米海軍の役割が不可欠であり、そのためにも日米同盟が重要であることをもう少し強調する発言があつてよかったと思った。

尖閣諸島の帰属をめぐる緊迫する日中関係に関しては、参加者は、日本が毅然とした態勢で日本の実効支配を続けること、および海上保安庁と海上自衛隊との連携の重要性を認識したと思う。そして参加者は、日米海軍関係史に詳しい阿川教授から、日米関係は日米海軍関係で始まったこと、そしてそれはペリーの日本開国以前に始まっていたことを学んだ。阿川教授は、現在の日中海洋対立においても、海洋国である日本と米国との同盟が不可欠であることを示唆して下さった。

全体として素晴らしいシンポジウムであったが、パネリストの数がやや多すぎた感があった。6人ではなく、3~4人ですればもっと討論が深まったであろう。また制服組の方の発言に難しい表現が時折あった。例えば、「わが国は平成22年において策定された防衛大綱において、各種事態に迅速、かつ柔軟に対応するべく、これまでの基盤的防衛力から、動的防衛力への進化を図り、平時から有事にかけてのあらゆる事態に迅速、かつ柔軟に対応できる体制の構築を目指し、防衛力整備を行っております」とか「訓練の多層的な

推進による動的防衛力の発揮が何にも増して重要であります」などという表現は、テーマに馴染みのない大学生などは面食らったのではないだろうか。